

ちょっと読んでみませんか（令和六年秋季彼岸）

第7話『すがすがしい気持ち』〈本源寺副住職 本間健司

昨年の秋彼岸プリントでも取り上げましたが、本源寺の本山である北山本門寺（正式名は富士山法華本門寺根源）では、一昨年から、小中学生を対象にした『おもす道場』を一泊二日で開催しています。

今年も、「日常の五心」（謙虚・反省・禅定・奉仕・感謝）について子供たちに分かりやすくお話しをするプログラムが組まれ、私もその一つを担当させて頂きました。

今年の私の担当は『奉仕』となり、昨年と同じく二日目の朝勤後に話すことになりました。ちようじんした。本門寺の朝勤（朝の読経）は五時三十分から始まるため、なんと、子供たちの起床時間は早朝四時四十五分（！）になっているのです。なかなか小中学生が朝の四時台に起きることはなと思います。

当日本堂に入ると、眠そうな顔をした子が何人か見受けられましたが、お経本を開き、しっかりとお経を読んでくれました。朝勤が終わり少しホッとしたのか、私の担当「奉仕」の話が始まる頃には、少し疲れたような感じの子もいましたが、話が始まると、しっかりと私の顔を見て話を聞いてくれ、私にとっても感心感謝の時間となりました。

さて、『奉仕』という堅いテーマに少しでも興味も持つてもらおうと、今回は「学校の掃除時間」をたとえに話を進めてみました。（以下、当日の雰囲気そのままに）

みんなは「損」か「得」だったら、どっちがいい？
もちろん、「得」だよ。

今は世の中みんな、少しでも効率よく「得」をしようと、色んな情報がインターネットやテレビ等にあふれていますね。「コスパ」（少しでも安く）、「タイパ」（少しでも早く）という言葉を目にしたことのある子もいるかも知れません。

じゃあ、皆さんに質問です。みんなが「得」を目指して、そしてみんなが「得」をすることって出来ると思いますか？（子供たちはそろって首を振ります）

そうだよね。みんなが「得」をしようとすると思えば必ず争いになる。いま世界で起きている戦争も、みんなが「得」をしようとした結果かも知れないね。

たとえば、学校での掃除について考えてみましょうか。

今日は学期末の大掃除の日だとします。学校内の様々な場所について掃除の分担を決めていきますね。色んな場所があるけれど、もし皆さん自分がトイレ掃除担当になったらどう感じますか？ しかも、そのトイレがとても臭くて汚れが酷いとしたら。

「損」か「得」だったら、きっと自分は「損」な担当になってしまったと感じる子が多いのではないのでしょうか。では本当に「損」でしょうか？

「臭くて嫌だなあ」「あっちの班の人はいいなあ」…そんな思いをあなたがずっと持ちながらトイレ掃除をしたなら、実は、本当に「損」になってしまうのです。

でも一方でね、「どうせやるんだったら少しでもキレイにしてやろう！」「手でさわられるくらいピカピカにしてみよう」…そう気持ちを切り替えて前向きに取り組めた子の場合は、「損」ではなく、「得」でもない、もっともっと素敵な「徳」というものになるんですよ。

「徳」というのは、分かりやすく言うと「すがすがしい気持ち」。この「すがすがしい気持ち」を運んでくれるのが『奉仕』。「させて頂きます」という心です。この「徳」という「すがすがしい気持ち」をたくさん感じれば感じるほど、皆さんの心も人生もとても豊かなものになっていくと思います。

これから生きていく中で、嫌な役割を引き受けなきゃならなくなったり、自分は「損」をしているなあ、と思うことが何度もあるかも知れません。でも、思い切って気持ちを切り換えて、「とことんやってみよう！」「これも何かのご縁なのだから“させて頂こう”」と『奉仕』の想いで取り組んでみて下さい。

そう話した後に、みょうほうれんげきようによらいじゅりようほん 妙法蓮華經如来寿量品第十六の中のお経文を紹介しました。

いっしんよくけんぶつ

ふじしやくしんみよう

じがぎゅうしゅそう

くしゅつりようじゅせん

一心欲見仏

不自惜身命

時我及衆僧

俱出靈鷲山

【読み方】 一心に仏を見たてまつらんと欲して、自ら身命を惜しまず。時に我および衆僧ともに靈鷲山に出ず。

【解説】 物事の損得を考えず見返りを求めずに、ただひたすら一心に物事に取り組んでいると、眼には見えない多くの尊い存在に守られていることに気付けるようになります。あなたは決して一人ではないのです。

仏様にお会いする、自らの心中におられる仏様に気付く、そのためには、物事の損得を超えて一心に取り組む『奉仕』の心がとても大切だと、子供たちに話しながら、自分自身があらためて気付かせて頂きました。

とはいえ、いつも“一心に一心に”と取り組んでいては、きつと疲れて果ててしまうことでしょう。そこで、日蓮聖人が熱心な信者さん夫婦に寄り添って説かれた優しい信仰のアドバイスの言葉をここで紹介しましょう。

ただ女房と酒うち飲みて、南無妙法蓮華經と唱えさせ給え。苦をば苦とさとり、樂をば樂とひらき、苦樂ともに思い合せて、南無妙法蓮華經とうち唱え居させ給え。

身近な人と“日常のささやかな楽しみを糧に”、苦しい時も楽しい時も、それもまた人生と前向きに受け止めながら信心を温めていくこと、それこそが「真の信仰」ですよ。という大聖人からの温かいアドバイスです。

肩の力は抜きながら、でも一心に「させて頂く」。そんな少しゆつたりとした『奉仕』の想いで生活できれば、人生を豊かにしてくれる「すがすがしい気持ち」を実感できる機会がおのずと増えていくような気がします。

すでに実践されている皆様に、合掌 南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經